

メッセージアウトライン

I テサロニケ 1:16～18 「三つの大切なこと」

[16] 「いつも喜んでいなさい」

どのようにしていつも喜んでいることができるのか。ウェストミンスター小教理問答の第一問には次のように書かれている。「人のおもな目的は何であるか」 その答えは「人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである」 つまり喜ぶということは、常にニヤニヤしているということではなく神を喜ぶということである。では、神を喜ぶとはどういうことか。神はそのひとり子イエス・キリストのゆえに私たちを子としてください、私たちの全存在を受け入れてくださっている。→エペソ 1:3~5 私たちが立派だから受け入れられているのではない。かえって、神を知らず、神を無視し、自己中心に生き、神に逆らう生き方をしていた者なのに、神はそんな私たちを愛し、ひとり子イエス・キリストをこの世に送り、私たちを救ってください。この事実が私たちに喜びを生み出すのである。世の始まる前からキリストにあって選ばれ、救われ、永遠のいのちが与えられ、神がいつもともにいてくださる（インマヌエル）。うれしい時も悲しい時も、順境の時も逆境の時も、雨でも嵐でもともにいてくださる。これがイエス・キリストを信じる者、クリスチャンに与えられている約束である。ゆえに、私たちはここに喜びの根拠を持ち、また私たちの生活全体でこのようなすばらしい救いを与えてくださった生ける真の神を喜ぶことができるのである。

また喜びは御霊の結ばせてくださる実の一つでもある。→ガラテヤ 5:22~23

[17] 「絶えず祈りなさい」

神の子とされた私たちは父なる神にイエス・キリストにあって祈ることができる。どんなことでも、何でも祈ることができる。何も遠慮する必要はない。主イエスご自身も地上におられる時、熱心に父なる神に祈られた。時には夜を徹して。この手紙を書いたパウロも感謝や賛美のことばを持って手紙の至る所で祈っている。祈らないクリスチャンは呼吸をしない人間というに等しく不自然である。聖書はしばしば私たち人間を弱く迷いやすい羊にとえている。そしてイエス・キリストが私たちの羊飼いである。イエスは いのちをかけて私たちを罪と死と滅びから救い出してください。私たちは彼の羊である。それゆえどんな時でも私たちはこの主イエスに、そして父なる神に祈りをもってより頼み、助け、守り、導きをいただくことができる。私たちの前に起こってくるどのような出来事も神の主権とはかりしれない知恵と摂理のうちに起こってくることを信じ、みこころが天になるごとく地にもなりますようにと祈ることができる。私たちは毎日の生活の中で大きいことでも小さいことでも絶えず祈り、豊かにそれをかなえていただく者になりたい。

→ I 歴代誌 4:9~10 ヤベツの祈り

[18]「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」

すべての事柄が全知全能の神の御手の中にあり、神に支配の中であって起こってくる。それゆえ、そのことを知る私たちは「すべての事について感謝する」ができるのである。もちろん私たち有限な人間にとってすべての事がわかるわけではないが、神はそのひとり子イエス・キリストを私たちのために十字架につけるほどに愛してくださっている。そして、私の目にはあなたは高価で尊いと言ってくださっている。→イザヤ 43:4 そして神はすべてのことを働かせて益としてくださる。→ローマ 8:28 私たちはこれらのことを忘れてはならない。

また神は私たちを苦しみや悲しみや、さまざまな所を通して訓練されることもある。そうされなければ私たちはいつまでも愚かなものをつかんでいるかもしれない。罪のうちに安住しているかもしれない。

聖書は言う。→ヘブル 12:4~11、I コリント 10:13

それゆえ私たちは信仰を持ってすべての事に感謝することができるのである。

いつも喜び、絶えず祈り、すべてのことについて、感謝する。私たちは、神に愛され、救われている者として、この三つの大切なみことばをよく覚えて、このことを毎日の生活において実践していく者になりたい。